

# 第2章 ふくしまをめざす将来の姿



本章では、前章のふくしまの特性(魅力)、時代潮流や時代認識を踏まえて、「基本目標」、「基本姿勢」、「めざす将来の姿」を示します。

本章の「めざす将来の姿」を踏まえて、次の章では、その実現を図るための県づくりの基本方向を示します。



「めざす将来の姿」を実現するために

第3章 ふくしまの基本方向へ

## 第2章 Fukushimaのめざす将来の姿

県全体で共有する基本目標を掲げるとともに、その実現に当たっての基本姿勢を示し、30年程度先を展望して実現を目指す「めざす将来の姿」を描きます。

### 1 Fukushimaのめざす将来の姿を描くに当たって

#### ● 厳しい時代認識

- 今後、人口減少・超高齢社会の本格的な到来、経済のグローバル化のさらなる進展、食料・資源・エネルギー需給の世界的なひっ迫、地球温暖化を始めとした環境問題の深刻化など、これまで私たちが経験したことのないような厳しい状況の到来が予測されています。
- このような中で長期的な将来を描くに際しては、激しい状況の変化が予測されているからこそ、時代を超えて人間にとって本当に大切なものをしっかりととらえる必要があるのではないのでしょうか。

#### ● 基本的な姿勢をしっかりと持って

- 時代を超えて本当に大切なものをとらえた上で、将来の姿を考え、それに向かって進んでいくためには、基本的な姿勢をFukushima全体で共有していく必要があると考えます。

#### ● 「人と地域」をFukushimaの <sup>いしませ</sup> 礎に

- 戦後、60有余年、我が国はめざましい経済復興を遂げ、世界第2位の経済大国にまで成長してきましたが、身の回りに物があふれている一方で、精神的な価値はないがしろにされる風潮が生まれてきました。
- あらためて人の幸福を考えてみると、それぞれの人が、謙虚さを失うことなく、自らに誇りを持ちながら、自分の心に描いたことにチャレンジしていくこと、そして、それを自分一人のためではなく、人と人とのつながりを感じる中で行っていくことではないでしょうか。
- そして、人が何かにチャレンジしていく上で、人と人とのつながりや支え合いが求められる場となるのは、それぞれの人が住む「地域」であると考えられます。なぜなら、「地域」こそが、人々の生活すべての舞台となるものだからです。
- このように、人づくりや地域づくりが夢と希望の持てる社会づくりにとっての鍵であることから、「めざす将来の姿」を描く中では「人と地域」をFukushima全体の礎とする必要があります。

#### ● 「活力」、「安全と安心」、「思いやり」が3本の柱

- 30年程度先の将来展望において予測されている、厳しい状況にあっても、「人と地域」を礎とした上で、県民の生活を豊かに支えられる経済的な基盤がしっかりしていること、不安を感じることなく穏やかに暮らせることが、ますます重みを増していきます。そのため、「活力」や「安全と安心」は、「めざす将来の姿」における重要な構成要素とすべきものです。
- また、人と人が支え合う自然と共生した持続可能な社会の実現は、県民一人ひとりが幸せを感じられる将来のFukushimaにとって不可欠なものであることから、人と人との支え合いや自然を大切にすることを「思いやり」として「めざす将来の姿」に位置づけています。

以上の考え方を県民全体で分かりやすく共有するために、基本目標を掲げるとともに、「人と地域」を礎とし、「活力」「安全と安心」「思いやり」の3本の柱で「めざす将来の姿」を描きます。

県民、民間団体、企業、市町村、県などさまざまな主体が連携し、協力しながら、夢と希望の持てるふくしまを創造していくために共有する目標を、「人」と「地域」を大切にするという視点から次のように設定します。

人がほほえみ、地域が輝く  
“ほっとする、ふくしま”



ふくしまに息づいている温かい県民性と互いを支え合う地域社会のきずなは、どんな時代においても失ってはならない大切な宝です。

これを将来にわたって守り育て、さらに磨き上げて次の世代に引き継いでいくこと、また、自信を持って全国に発信することは、ふくしまのめざす将来の姿を実現する上での基礎となるとともに、ふくしまから全国に向けてのメッセージとなります。

ふくしまを支える主役である県民一人ひとりが、いきいきとして、笑顔にあふれ、活躍することによって、地域がさらに輝いていきます。

私たちのふくしまが、将来にわたって、住んでいるみんなにとって元気でいられる場所であり続けてほしい。

そんなふくしまを、県民にとっても、日本中、そして世界中から訪れる多くの人たちにとっても、癒される、“ほっとする”ところとしてみんなで創り上げていきたい。

こうした想いを県全体で共有していくために、本計画の基本目標として掲げます。

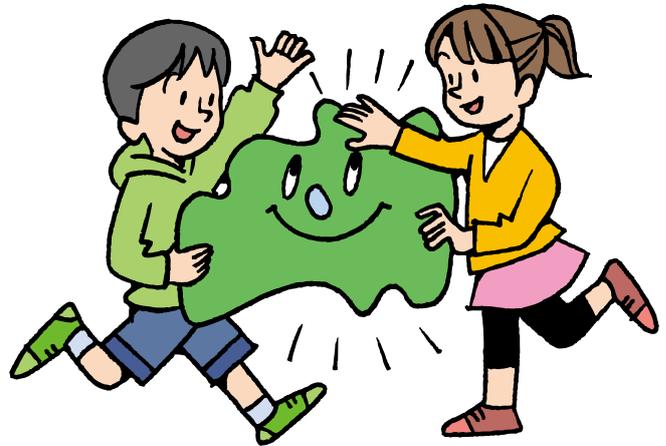
# 3

## 基本姿勢

将来の姿を考え、さらには、その実現を目指していく上で、ふくしまの特性(魅力)や時代認識を踏まえると、次の3つの基本姿勢で臨むことが重要になるものと考えます。

### ふくしまの魅力の再認識、磨き上げ、発信

ふくしまのさまざまな魅力を再認識し、磨き上げ、発信する。



### 多様性をつないで、総合力を発揮

人や地域の多様性の一つ一つをつないで、総合的な力を発揮する。



### 県民みんなが未来に向かってチャレンジ

今の一步が未来をつくることを信じて、一人ひとりがチャレンジをしていく。



基本姿勢は、ふくしまの特性(魅力)や時代認識を踏まえた次の「大事にしたい考え方」がその背景になっています。

# ふくしまの魅力の再認識、磨き上げ、発信

ふくしまのさまざまな魅力を再認識し、磨き上げ、発信する。

大事にしたい考え方

本県には、温かな地域コミュニティ、長年の歴史・伝統に支えられた多様な文化、豊かな自然環境、豊富な食材など、素晴らしい地域資源と、ふくしまを支える人々が揃っています。

これからのふくしまを考えていくに当たり、ふくしまの宝といえるこれらの素晴らしい点を再認識することが大事であり、そのことが郷土に対する自信、誇り、愛情につながっていくのではないのでしょうか。

そして、ふくしまの有する魅力を、誇りと愛情をもって磨き上げていくことが求められているのではないのでしょうか。

また、ふくしまの有する魅力を、県内、県外、海外などに自信を持って伝えていくことで、より多くの人と分かち合うことができるのではないのでしょうか。

第2章 ふくしまをめざす将来の姿

## 多様性をつないで、総合力を発揮

人や地域の多様性の一つ一つをつないで、総合的な力を発揮する。

大事にしたい考え方

本県には個性あふれる人々が存在します。多様な地域社会が存在します。

この多様性はふくしまの宝であり、今後も大切に引き継いでいくことが必要ではないのでしょうか。

また、価値観やライフスタイルが多様化する中、人と人とのつながりを大切にし、互いに支え合う温かな県民性が今まで以上に大事になるのではないのでしょうか。

さらに、地域や人々の多様性を尊重し、その多様性をつなげ、交流、連携していくことにより、新たな価値を生み出し、本県の良さともいえる「総合力」を伸ばしていくことができるのではないのでしょうか。

## 県民みんなが未来に向かってチャレンジ

今の一步が未来をつくることを信じて、一人ひとりがチャレンジをしていく。

大事にしたい考え方

本県の若者を始め、多くの人たちが文化・芸術・スポーツ分野などにおいて全国的、さらには世界的な活躍を果たし、県民に自信と誇りと希望を与え、本県の元気につながっています。

ふくしまが輝くためには、何よりもまずそこに住む一人ひとりがそれぞれに活躍できることが大切ではないのでしょうか。

一人ひとりが持てる力を最大限に伸ばし、お互いを尊重し、つながりを持ちながら、信頼関係を築いていく中で、それぞれができる範囲でチャレンジをしていくことができれば、次の世代に明るい未来を引き継ぐことができるのではないのでしょうか。

# 4

## めざす将来の姿

基本目標「人がほほえみ、地域が輝く“ほっとする、ふくしま”」の実現に向けて、県づくりを進めていくためには、県はもちろんのこと、県民、民間団体、企業、市町村など、地域で活動するさまざまな主体が力を合わせて、将来の方向についてイメージを共有しながら、取り組んでいく必要があります。この具体的なイメージが「めざす将来の姿」です。

ここでは、「人と地域」が輝く『ふくしま』を「ふくしまの礎(いしずえ)」として位置づけ、「ふくしまを支える柱」として

「いきいきとして **活力** に満ちた『ふくしま』」

「**安全と安心** に支えられた『ふくしま』」

「人にも自然にも **思いやり** にあふれた『ふくしま』」

の3つを置いて、30年程度先を展望し実現を目指す「めざす将来の姿」を描きます。



## 人と地域が輝く「ふくしま」

ふくしまの未来を築いていく上で基本となるのは、「人」であり、「地域」です。

活気に満ち、安全と安心に支えられ、思いやりにあふれた豊かな「ふくしま」としていく上では、長期的な観点から、人づくり、地域づくりを行っていくことが極めて重要となることから、「人と地域が輝く『ふくしま』」を「めざす将来の姿」の礎(いしずえ)として掲げます。

将来のふくしまでは、子どもたちが心豊かにたくましく育つとともに、県民一人ひとりが持つ能力や可能性を開花させるためのさまざまな「場」が用意され、誰もが、地域や人と人とのつながりによる安心感の中で生きがいを持って活動しています。

また、地域団体、NPO、企業など多様な主体と連携しながら、地域住民による主体的な地域づくりが行われ、分権型社会に対応できるようになっているとともに、過疎・中山間地域などを含めて、それぞれの地域の特色が十分に発揮されることによって、県全体がいきいきとした輝きを放っています。

### 1 子どもから大人まで一人ひとりの輝きと生きがいが見いだせる社会

#### ■子どもたちが心豊かにたくましく育つ社会

- 妊娠・出産・育児の一連において充実した医療などを受けることができるようになっているとともに、仕事と生活の調和が図られた就業環境と社会全体の支援により安心して子どもを産み育てることができる社会となっています。
- 地域全体でのかかわりの中で、子どもたちがいのちを大切に、思いやりの心、自立心、地域に対する知識と愛着、そして社会の一員としての自覚を持ち、心身ともに健やかに育っています。
- 子どもたちが将来の目標を見据えながら、確かな学力と国際的な感覚を身につけ、一人ひとりの可能性を広げて、夢と希望を実現することができる社会となっています。

#### ■人々がはたらつとして活躍する社会

- 学校、企業、自治体、NPOなどの各種民間団体、個人の間で互いの知恵と技術をつなぎ合わせることでできる場が至る所にできるとともに、人々が自らの能力をいかに発揮して新たなチャレンジができるようになっています。
- 家庭、学校、職場、地域など、あらゆる場面で性別にかかわらず、男女とも自らの能力を発揮できる社会となっています。
- 高齢になっても、これまで培ってきた能力を生かせる場がさまざまな形で用意され、高齢者がいきいきと活動しています。



## 2

## ■文化やスポーツなどによる活動の場づくり

- 本県の歴史や伝統文化が大切にされているとともに、子どもから大人まで、さまざまな文化活動、スポーツ活動などを行うことができる場が用意されており、さらにはこれらに多くの人が触れ、支える「文化」が根付いています。
- 一人ひとりがそのライフステージに合わせて、さまざまな学習や体験ができ、これらを通して自己実現を図る環境が整っています。

## ■魅力と個性にあふれた地域社会

## ■力強さに満ちた地域づくりと分権型社会への対応

- 人々が集う中心市街地に人と環境に優しい交通システムが整い、持続可能でコンパクトなまちが各地に形成されているとともに、まちとまち、都市と農山漁村<sup>33</sup>との間で、役割分担と補完関係が生まれ、それぞれがにぎわいと活力を保っています。
- 地方自治の主役として住民が力を発揮し、企業、行政などと地域の課題を共有し、お互いの役割を認識しながら、相互に連携・協働して主体的に地域づくりを進めています。
- 住民に身近な市町村が中心となり、県やそのほか多様な主体との連携の下、地域のニーズに対応した効果的で効率的な公共サービスの提供が行われています。

## ■地域住民と多様な主体でともに支える過疎・中山間地域

- 過疎・中山間地域の有する国土保全、食料・水の供給などの多面的な機能について、都市部においても、広く関心が高まるとともに、地域住民が自らの地域の将来に対する責任感を持ちながら、都市部の住民などさまざまな人たちと力を合わせて地域づくりに参加することで、新しいきずなが生まれ、地域力が脈々と引き継がれています。
- その中で再発見された地域固有の技術、文化、生活の知恵を生かしつつ、特色ある地域資源を活用した農林水産業や観光業など多様な産業が発展することにより、雇用と収入の場が確保され、地域経済が力強く発展しています。
- また、周辺の地域や都市との連携、情報通信技術の活用などにより医療、福祉等のサービスが確保されているほか、積雪・寒冷等の条件不利が緩和されているなど、生活環境が維持・改善されており、安全に安心して心豊かな暮らしができるようになっていきます。

## ■個性的で活力に満ちた電源立地地域

- 歴史的意義を有する発電所や自然エネルギーを活用した発電所などの電力施設を用いた産業観光や、さまざまな交流拠点施設などを活用した観光・交流により、電気のふるさとである電源立地地域と都市との交流が活発になっています。
- 発電所の有する最先端の技術などを活用した企業間の交流が進み、環境・エネルギー産業などを始めとした、多様な産業が集積されています。



33 本計画で「都市と農山漁村」と記載するに当たっては、同一市町村内における都市部と農山漁村部も含めて記載しています。

# ふくしまを支える3本の柱

## 柱 I

### いきいきとして活力に満ちた「ふくしま」

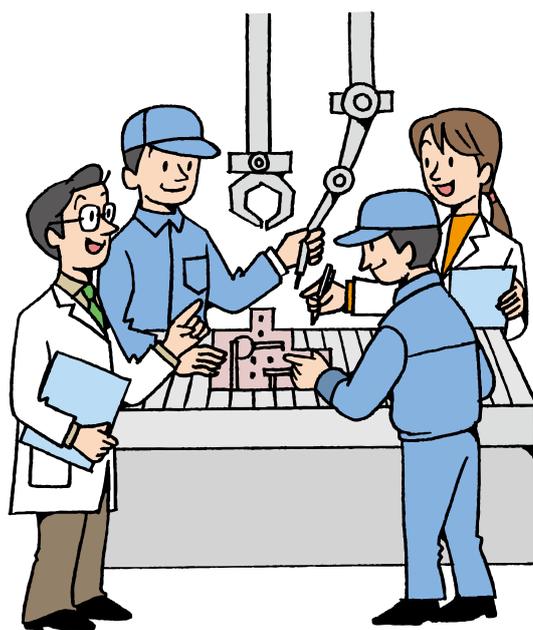
人口減少・超高齢社会の本格的な到来、経済のグローバル化の進展などが予測される中、人、モノ、情報の交流を活発にし、県民の生活を豊かに支える経済的な基盤を確かなものとしていくことがこれまで以上に重要となることから、「めざす将来の姿」に「ふくしまを支える柱」の1つ目として「いきいきとして活力に満ちた『ふくしま』」を掲げます。

将来のふくしまでは、県内外さらには海外との多様な交流ネットワークや東北圏と首都圏の結節点に位置する地理的な優位性などに支えられながら、世代や性別を超えて人々が知恵と力を出し合い、安全で多彩な食材を生み出す農林水産業や力強い製造業を始めとした本県に存在する多様な産業、資源そして知恵が結びつくことによって、付加価値の高い産業が躍動するとともに、県内外や海外との交流の拡大によって、人やモノの多様なつながりが生まれています。

## 1 地域に根ざした力強い産業に支えられた社会

### ■ 力強い産業の多彩な展開

- 経済がグローバル化する中でも経済変動に強く、高い競争力を有する新たな分野を含む多様な産業クラスターが形成されています。
- 企業の立地が盛んになるとともに、地元企業が、産学民官で有機的な連携を保ち、本県独自の産業技術の向上と低炭素化を始めとする技術革新によって、着実に技術力と収益力を強化しています。
- 製造業以外にも、商業や、IT産業・観光産業を始めとするサービス産業が強化され、多彩な県内産業が展開しています。



- 産業間の連携が進むことによって、県内の商品やサービスの情報発信力が高まるとともに、付加価値やブランド力が向上し、県内産業の総合的な力が向上しています。

### ■ 農林水産業の持つ底力の発揮

- 県産農林水産物の積極的な情報発信を通じて、生産者と消費者が互いに理解し、きずなが深まることによって、県産農林水産物が高い評価を得て、地産地消が進み、県外でも広く受け入れられるようになり、生産者が誇りを持って農林水産業を営んでいます。
- 経営感覚に優れた多様な担い手により、広大な農地・森林、豊かな水産資源、首都圏との近接性など高いポテンシャルが十分に活用された安定的な経営が行われ、安全で高品質かつ多様な農林水産物の一大生産基地となっています。
- 他産業との連携が進み、県産農林水産物があらゆる分野で活用されるようになるとともに、地域の特性を生かした商品やサービスが充実し、国内や海外で安定的な販路を確保しています。さらに、農林水産業に新たな付加価値が生み出され、農山漁村に活気が満ちています。

### ■ 産業を支える多彩な人々の活躍

- 県内にさまざまな産業による多様な就業先が充実し、経済動向の変化があっても、仕事に就くことができる環境となっているとともに、県外からも多彩な能力を有する人々が本県に集まり、県内の産業や活動を力強く支えています。
- 長年にわたり継承されてきた技能や経験、知識が着実に次世代に引き継がれるようになっているとともに、異業種との連携などにより、新鮮な輝きを放っています。
- 男性、女性、高齢者、外国人など、県内に暮らすさまざまな人々が、自らの能力を高め、発揮できるようになっています。

## 2 多様な交流ネットワークに支えられた社会

### ■ 多様な地域との交流・連携と定住・二地域居住の推進

- 県内において、生活圏相互、市町村相互の結びつきが強まり、経済、観光、文化などの交流がますます盛んになっています。
- 豊かな自然環境、温泉地、おいしい食べ物、伝統文化、温かな人など地域の魅力が広く理解され、県外から定住・二地域居住をする人々が増え、地域に新たな活力が生まれています。
- 東北圏、首都圏などの各都道府県との連携により、産業基盤整備、学術振興、防災、観光など、さまざまな分野における広域的な取り組みが行われています。

### ■ 魅力あふれるふくしまの観光と国際交流の推進

- 自分たちの地域の魅力を積極的に発信することによって、ふくしまの魅力がより広く知られるようになり、地域資源を生かした滞在型の観光拠点として、多くの観光客とリピーターが訪れ、人々の交流が盛んに、安定的に行われています。
- 伝統文化を始めとした文化やスポーツ活動を通じた交流や国際的なイベントの開催などにより、本県の魅力が広く世界に発信されるとともに、国際的な視野を持つ多くの人々により国際協力活動が盛んに行われ、本県と海外各国との間での文化交流・相互理解が進むことによって、本県の新たな活力が生まれています。また、あらゆる面で世界各国との交流が高まり、国際的な経済交流が活発化しています。

## ■ 交流と連携強化のための基盤づくりと活用

- 東北圏、首都圏との広域的な結びつきを視野に入れた基幹的道路ネットワークなどの交流基盤が充実し、県内外における時間的な距離が短縮されています。
- 最先端の情報通信技術が整い、それらを活用した行政サービスや地域活性化の取組みが行われているとともに、一人ひとりの情報活用力が高まることによって、ふくしまの魅力が多くの県民から発信され、ふくしまの知名度が高まっています。
- 有機的な道路ネットワーク、空港、港湾などを基礎として、東北圏と首都圏、太平洋と日本海を結ぶ我が国における重要な交流・物流拠点となっています。



## 柱Ⅱ

## 安全と安心に支えられた「ふくしま」

人口減少、超高齢社会の本格的な到来によって、人々の健康や介護などに対するさまざまな不安が高まっているとともに、自然災害などのさまざまなリスクにより私たちの生活が脅かされるおそれがあります。

安全と安心は人々の生活を支える基礎となるものであり、人々の関心や重要性が高まっていることから、「めざす将来の姿」に「ふくしまを支える柱」の2つ目として「安全と安心に支えられた『ふくしま』」を掲げます。

将来のふくしまでは、本県が有する温かい地域のきずなや世代を超えたつながりに支えられながら、保健・医療・福祉サービスが充実し、生涯を通じて健康でいきいきと過ごすことができ、生活のあらゆる場面において、必要な備えと情報共有がなされ、安全と安心に支えられた快適な暮らしができるようになっています。

## 1 誰もが健康で安心して暮らせる社会

## ■生涯を通じた健康づくりの展開

- 若い世代から高齢者まで県民一人ひとりが運動習慣や食生活の改善など健康づくりに励み、生活習慣病が少なくなっています。
- 健康づくりとともに、介護予防の取組みが充実し、元気な高齢者が増え、健康寿命が伸びています。
- 健康を脅かすさまざまな感染症の予防が図られ、人々が安心して日々の生活を送ることができるようになっています。

## ■安心できる地域医療提供体制の充実

- 地域のニーズに応じた質の高い医療を提供できる医療機関や医療従事者などが十分に確保され、子どもから高齢者に至るまで、どの地域でも安心して医療機関に受診できる体制が整っています。

## ■高齢者や障がい者に対する多様な福祉サービスの充実

- 要介護高齢者や障がい者などに対して、事業者によるサービスのみならず、地域におけるさまざまな団体などによるサービスが充実し、安定的な福祉システムが確立しています。
- 障がい者を取り巻く社会環境が整備され、希望に応じて地域での生活や就労を選択できるなど、社会の中で自分の能力を充分発揮できるようになっています。



## 2 ■ さまざまなリスクに対して安全で安心な社会

### ■ 身の回りの安全と安心の確保

- 犯罪や重大な人権侵害への対策が十分にとられるとともに、地域コミュニティが主体となった防犯活動や交通安全活動が活発に行われ、地域と関係団体、警察、行政などの連携により安全と安心が守られた地域社会となっています。
- 安全面に問題のある食品などが出回ることがなく、県産農林水産物を始めとする安全で安心な食品がより身近な存在となっています。
- 消費生活にかかわる安全が守られるよう十分な対策がとられているとともに、万が一被害に遭った場合は、身近な機関で相談や多様な支援が受けられるようになっています。

### ■ 災害など不測の事態に対する備えの充実

- 地域における防災体制が充実するとともに、地域住民の間で防災に関する情報の共有がなされ、広域的な連携などにより災害が起きた時でも、被害の拡大を防止し、迅速な救助・復興ができるようになっています。
- 次々に生まれる新たなリスクを事前に情報収集、分析、管理できる仕組みができており、新たな感染症やテロなどの未然防止対策が進んでいるとともに、これらの被害が発生した場合でも迅速に対応できるような危機管理体制が整備されています。
- 原子力発電所とその周辺地域や化学工場などの事業所の安全確保対策が十分に行われ、地域住民が安全に安心して暮らせるようになっています。

### ■ 安全で安心な生活を支える社会基盤の提供

- 地球温暖化などによる気候変動や異常気象に備え、道路や河川管理施設などが計画的に整備されているとともに、大規模地震に対しても、公共施設や民間施設における耐震化が進み、安全で安心に利用されており、自然災害に対して強い地域となっています。
- 計画的な維持管理により、道路、河川管理施設などの社会資本が長寿命化し、次の世代も安全で快適に利用することが可能な状態に保たれています。



柱  
Ⅲ

## 人にも自然にも思いやりにあふれた「ふくしま」

私たちの生活や環境は、今まで以上に、自分たちを取り巻く地域だけではなく、県外、そして世界と深くつながるようになり、私たちの行動が、日本、世界、さらに未来にもつながっていくものであることを意識していくことが大切になります。

こうした中では、身近な人に対する「思いやり」と同様に、さらに広く、そして遠い未来の人や出来事に思いをはせるという、広範で長期的な視点による「思いやり」の心を持つことが強く求められることから、「めざす将来の姿」に「ふくしまの将来を支える柱」の3つ目として「人にも自然にも思いやりにあふれた『ふくしま』」を掲げます。

将来のふくしまでは、県民一人ひとりが周りや県内外の人々、さらには次の世代への「思いやり」を大切にし、本県に息づいている地域社会のきずなを基礎としながら、お互いに支え合い、責任を持って行動することで、一人ひとりが大切にされる社会となるとともに、自然環境が次の世代に美しい姿で引き継がれています。

## 1 支え合いの心が息づく社会

## ■ 多様な人々がともに生きる社会の形成

- 人権の尊重が徹底される社会となり、年齢、性別、能力、適性、国籍、文化などさまざまな特性を持つ人々が持てる力を十分に発揮し、ともに生きることができるよう、社会の仕組み、人々の考え方など、あらゆる面で環境が整備された社会となっています。
- ユニバーサルデザインの考え方が浸透したまちづくりが進み、年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが暮らしやすい社会となっています。

## ■ 思いやりと支え合いの心に満ちた社会の実現

- 離職した場合におけるさまざまな支援が充実しており、安心して新しい就業先を選択できる社会となっています。
- 生活不安やストレスによる精神疲労の抱え込みに対するさまざまな支援によって、心穏やかに、自分自身を、そして身近な人を大切にしながら暮らすことができるような支え合いの社会となっています。
- 世代の別にかかわらず、社会とのつながりを持ってないでいる人々に対する支援や見守りの輪が地域社会に広がっており、人と人とのつながりを感じながら暮らすことができるようになっていきます。
- 援助が必要な子どもや家庭に対する社会全体の支援が充実し、すべての子どもが周囲から大切にされるようになっていきます。



## 2 ■美しい自然環境に包まれた持続可能な社会

### ■美しい自然環境の継承

- 生物の多様性が保たれた豊かな自然環境が守られているとともに、自然とふれあうことのできるさまざまな場や機会が確保され、自然の恵みを将来にわたって享受できる社会となっています。
- 豊かな山、川、海、湖沼に代表される美しい自然環境、さわやかな空気、清らかな水が保全されています。
- 美しい自然景観、歴史と伝統が息づく景観、街並みの景観などが保全・継承・創造されています。

### ■環境への負荷の少ない低炭素・循環型社会への転換

- 地球の有限性に対する社会的な認識が深まり、産業、行政、学校、家庭など社会のさまざまな主体による省資源・省エネルギーの取組みが定着して、二酸化炭素の排出量が減少した低炭素型の社会へと転換しています。
- 太陽光などの再生可能なエネルギーが最大限活用され、社会経済の発展と自然環境の保全の好循環が生まれています。
- 二酸化炭素吸収源など多面的な機能を有する県内の広大で豊かな森林が大切に整備され、森林保全活動と経済活動が調和した持続可能な取組みが行われています。
- 廃棄物などの発生抑制や資源の循環利用などの取組みが当たり前のこととして県民、産業界、行政に浸透し、資源を大切にする循環型の社会に転換しています。



## わたしが描く未来のふくしま

# 作文コンクール

### 小学生の部 ● 最優秀賞

会津美里町立本郷第一小学校

## 「明るい未来を信じて」

星 千夏さん

私は今、福島県の会津に住んでいる。私はこの土地が大好きだ。長い歴史も文化もあるし、何よりも人と人とのつながりがあるからだ。だから十年後も二十年後も、ずっとこの土地に住んでいたいと思っている。そして私が大人になった時も、この福島はずっと住みやすい場所であってほしいと思う。

これからの社会は、少子高齢化がますます進み、いろいろな問題が起きてくるだろう。お年寄りの数が増えるのを、困ったこととしてとらえるのではなく、お年寄りが持っている知識や技術をうまく利用して、みんなが幸せになれる社会にしていかなければならないと思う。

私たち子どもは、お年寄りの方たちと、もっと自由に交流すべきだと思う。茶道や生け花、手芸や料理、囲碁や将棋など、時間をかけてじっくりと教えてもらいたいことがたくさんあるからだ。学校の授業は午前中で終わり、午後は自分の好きなこと、得意なことを思いっきりできるようになればいいと思う。

また私たちがお年寄りに対してできることもたくさんあると思う。一人暮らしのお年寄りに、買い物やせんたく、おそうじなどのお手伝いをしてあげれば、きっと喜んでもらえるはずだ。学校が終わった午後に、このようなボランティア活動の時間をとるのもいいことだと思う。子どもも大人も、お年寄りもお互いに助け合っていけば、少子高齢化の問題は、何とか解決できるのではないだろうか。

人間は、自分が一番大切だと思っている。でもそれだけでは世の中は良くならない。十年後も二十年後も、ずっとこの福島に住みやすい場所であるためには、みんなでやさしい思いやりの心を持って、助け合って生きていくようにしなければなりません。私も何か力になれることがあれば、少しでも役に立つようにがんばってみたいと思う。

### 中学生の部 ● 最優秀賞

福島大学附属中学校

## 「わたしの描く未来のふくしま」

福原 祥子さん

私の自慢のひとつが、家で食べているお米である。それは、会津の祖父の知り合いの谷野さんという米作りの名人（と父は呼んでいる。）が作るコシヒカリだ。祖父がこまめに宅配便で送ってくれるおかげで、我が家は、いつもおいしいお米を食べている。

東京に住む母方の祖母は「会津からお歳暮で、谷野さんのお米が届くのがうれしい。」といつも言っている。祖母が新米で作る塩むすびは、叔父の会社の仲間にも大好評で、「今年はまだ？」と催促されるそうだ。

この話を聞くまで、私は、自分がとてもぜいたくなお米を食べ続けてきたことに気が付かなかった。日常生活にさりげなく溶け込んでいる「福島の宝」に、目が向かなかったのだ。同じように、自然の風景や歴史的な建造物、伝統芸能、地元にはかない特産品、自家用の食材など、季節の移り変わりや、生活のいろいろな場面の中に、私たちが気付かずにいる福島の魅力が潜んでいるのではないだろうか。だから、いろいろな視点で県内を見回し、隠れている多くの「福島の宝」を見つけたり、新たに作り出したりして、福島県の価値と魅力を世界中に発信する必要があると思う。

そのうえで、「未来のふくしま」は、広い県土と美しい自然、それに東京にもほどよく近いという好条件を武器にして、「品質のよい田舎」を目指すべきだと思う。工場誘致の競争や観光旅行のPR、農産物の販売などの場で、交渉相手の会社やお客さんが選びたい福島県になってほしい。スーパーの野菜売り場で、値段が高くても国産品を選んでしまうあの「信頼感」と「安心感」で、福島県を選択してもらえるようにしたい。

福島県が、世界との関わりの中で、誇り高い豊かなふるさとであってほしいと、私は願っている。